

特許特化型生成 AI・AI エージェント比較調査報告書

Patsnap・TokkyoAI を中心とした機能、技術、ユースケース、将来影響の総合整理

作成者：Manus AI

作成日：2026 年 6 月 5 日

対象：Patsnap / TokkyoAI / Genzo AI / Summaria / AI Samurai / Patentfield

注記：本報告書は公開情報および本対話内で実施した調査・分析に基づく。機能、価格、提供範囲は提供事業者により変更される可能性がある。

目次

本書は、AI エージェント型特許 AI ツールと従来型の特許特化生成 AI ツールの違いを整理したうえで、Patsnap と TokkyoAI の具体的な調査計画、アウトプット、技術アーキテクチャ、ユースケース別の優位性、今後の機能拡張、日本の知財実務への影響を一つの文書に統合したものである。

1. 調査の背景と結論
2. AI エージェント型と従来型生成 AI 活用ツールの違い
3. 各ツールの概要
4. Patsnap と TokkyoAI の具体的な調査計画とアウトプット
5. データソース・アルゴリズム・技術アーキテクチャ比較
6. ユースケース別評価
7. 将来の機能拡張
8. 日本の知財実務への影響
9. 導入モデル、ガバナンス、実務上の提言
10. 参考文献

1. 調査の背景と総括

本調査は、AI エージェントを使用した特許特化型生成 AI 活用ツールとして知られる Patsnap と TokkyoAI について、従来の生成 AI を活用した特許特化型ツール、すなわち島津製作所型 Genzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfield との違いを整理し、さらに Patsnap と TokkyoAI の調査計画、アウトプット、データソース、アルゴリズム、ユースケース別の優位性、今後の機能拡張、日本の知財実務への影響までを総合的に比較するものである。

最も重要な結論は、Patsnap と TokkyoAI の新しさは単に「生成 AI を特許業務に使う」点ではなく、ユーザーが与えた目的に対して AI が調査計画を立て、検索、分析、比較、文書化、提案までを一連のワークフローとして遂行する点にある。Patsnap はグローバル特許・科学技術データに接地した検索・比較・FTO・ドラフト生成に強く、TokkyoAI は日本語の研究メモや現場課題から発明提案書、出願方針、社内説明資料へ変換する業務プロセスに強い。

Patsnap は AI エージェントを、目標、記憶、ツール、計画を備え、ユーザーの代わりに段階的に作業を進める仕組みとして説明している。TokkyoAI は Deep Research を「結果生成」ではなく、人間の知財担当者や弁理士の思考プロセスを再現・可視化する業務遂行型 AI として説明している。

比較軸	Patsnap	TokkyoAI
基本的な強み	グローバル新規性調査、FTO、クレームマッピング、海外出願ドラフト、競合監視	日本語研究メモからの発明抽出、発明提案書作成、社内説明資料、知財民主化
中核思想	世界の特許・技術文献を根拠に、検索・比較・評価を高速化する	研究開発現場の未整理情報を知財実務で扱える文書へ変換する
主な利用者	大企業知財部、R&D 戦略部門、海外事業部、特許事務所	技術者、知財部、中小企業、大学、スタートアップ、弁理士
実務上の位置づけ	外部環境、競合、海外権利、FTO を確認するための AI エージェント	社内発明候補を掘り起こし、出願検討へつなげる AI エージェント

2. AI エージェント型と従来型生成 AI 活用ツールの違い

従来型の特許特化生成 AI ツールは、検索、要約、査読、明細書ドラフト、拒絶対応、分類、分析といった個別工程を AI で効率化するものである。これに対して AI エージェント型は、個別機能の集合ではなく、目的から逆算して工程を組み立てる点に特徴がある。ユーザーが「この発明の新規性を確認したい」「この製品の FTO を確認したい」「この研究メモから発明提案書を作りたい」と入力すると、AI が必要な調査観点、検索戦略、比較方法、最終成果物の形式を決めて作業する。

比較軸	AI エージェント型	従来型生成 AI 活用ツール
基本思想	目的達成型。ユーザーが目的を与える	工程支援型。人間が決めた工程の中で

	と AI が工程を組み立てる。	AI を使う。
AI の役割	調査員、知財アナリスト、ドラフターに近い。	高度な補助者、検索・要約・ドラフト生成の支援者に近い。
ワークフロー	多段階・自律実行。検索、分析、比較、文書化を連続実行。	人間主導。対象文献、検索式、指示テンプレート、編集判断は人間が主導。
透明性	計画、検索式、根拠文献、比較表、引用付きレポートを提示する方向。	AI 出力の確認・修正、履歴、チェックリスト、テンプレートが中心。
実務上の効果	調査プロセス全体の自動化・半自動化。	個別工程の効率化、品質平準化。

ただし、境界は完全に固定的ではない。Summaria にもワークフロー型 AI エージェントや Agent 編集機能があり、Genzo AI にも知財業務をモジュール化して自動化する設計がある。したがって、Patsnap と TokkyoAI だけが AI を高度に使っているというより、Patsnap と TokkyoAI は AI エージェントという言葉で「目的から成果物まで」の連続遂行を前面に出している、と理解するのが妥当である。

3. 各ツールの概要

3.1 Patsnap / Eureka AI Agents

Patsnap は Eureka を垂直特化型の AI Agents エコシステムへ転換し、IP、R&D、Materials、Life Sciences の各領域にエージェントを配置している。IP 領域では Novelty Search、FTO Search、Design FTO Search、Invention Disclosure、Patent Drafting、Office Action Response、Essentiality Review など が示されている。Patsnap の特徴は、PatsnapGPT、RAG、RAT、ガードレール、引用付きレポート、グローバル特許・科学技術データの統合にある。

3.2 TokkyoAI / MyTokkyo.Ai

TokkyoAI は、技術メモ、研究メモ、議事録、図面、現場課題などを入力として、発明抽出、先行技術調査、類似特許比較、発明提案書作成、出願文書のベース草案生成を支援する。Deep Research では、Deep Search、Deep Analysis、Deep Proposal により、検索・分析・提案書作成を一気通貫で行い、検索式や分析過程、AI の思考プロセスを可視化する。

3.3 Genzo AI

Genzo AI は、島津製作所の知的財産部が独自開発・運用してきた知財関連業務の自動化プラットフォームを社外提供する SaaS である。対象業務は、発明・発掘に関する明細書作成、特許翻訳、特許庁審査対応、特許侵害予防、契約書レビューなどである。方針として「ロジック化可能な知的労働は生成 AI に置換する」

「ベテランの思考プロセスを AI のプロンプトに変換する形式知化」が掲げられている。Human-in-the-loop を前提に、実務直結型 AI×人協働プラットフォームとして設計されている。

3.4 Summaria

Summaria は、特許文書の読解支援 AI アシスタントである。特許文書の用語説明、要約、ハイライト、対比支援、分類支援、発明評価支援、調査支援、スクリーニング、明細書作成支援、拒絶支援ワークフロー、意見書・補正書案作成、クレームチャートなど、非常に広範な実務支援機能を備える。人間主体の特許実務を前提に、AI が補助的かつ高度な役割を担う設計である。

3.5 AI Samurai

AI Samurai ONE / ZERO は、IP Landscape と生成 AI を利用した特許申請支援ツールである。高速検索、特許群俯瞰、AI による類似文献評価、IPC 認定評価、審査シミュレーション、類似文献情報の参照、明細書ドラフトの自動生成を特徴とする。主眼は、特許調査、審査シミュレーション、特許文書作成支援のオールインワン化にある。

3.6 Patentfield / Patentfield AIR

Patentfield は AI 特許総合検索・分析プラットフォームである。AI サマリーは、特許全文から用途、課題、効果、特徴を抽出し、平易な文章で構造化する。Patentfield AIR は、検索母集団に対して生成 AI をワンクリックで適用し、要約、翻訳、組成・数値抽出、分類ラベル付与、ポートフォリオ分析、新規アイデアや請求項と先行文献の対比評価などを行う。大量処理と検索・分析 UI への生成 AI 組込みが特徴である。

ツール	分類	主な強み	AI エージェント型との差分
Patsnap	AI エージェント型	グローバル新規性調査、FTO、クレーム比較、特許ドラフト、技術動向監視	目的から検索・分析・引用付きレポートまでを自律的に遂行する方向が明確。
TokkyoAI	AI エージェント型	日本語研究メモからの発明抽出、先行技術調査、発明提案書、出願ドラフト	検索・分析・提案書作成を Deep Research として一気通貫化。
Genzo AI	業務自動化型	届出・出願、翻訳、中間処理、FTO、契約レビュー	知財業務モジュールを AI で標準化し、人間確認を前提とする。
Summaria	読解・実務支援型	特許文書読解、分類、対比、明細書作成、拒絶対応	ワークフロー機能はあるが、人間主体の補助型としての性格が強い。
AI Samurai	申請支援型	調査、審査シミュレーション、明細書ドラフト	申請支援機能の統合型で、全工程の自律計画より個別機能が中心。
Patentfield	検索・分析型	AI サマリー、AI 検索、大量査読、ポートフォリオ分析	検索母集団をユーザーが設定し、生成 AI を一括適用す

			る分析支援型。
--	--	--	---------

4. Patsnap と TokkyoAI の具体的な調査計画とアウトプット

4.1 Patsnap Novelty Search AI Agent の事例

Patsnap の Novelty Search AI Agent は、自然言語で技術案を入力し、AI が主要技術特徴を抽出し、ユーザーが確認・編集したうえで、多段階検索を行い、グローバル特許・文献と比較し、構造化された新規性レポートを生成する。公式説明では、200～500 語程度の技術解決手段の入力が推奨され、AI は入力から key technical features を識別する。その後、ユーザーは抽出特徴を確認・修正し、AI は semantic、classification、citation-based methods などの multi-step searches により関連先行技術を探査する。

例として、電動車両のバッテリー冷却装置において、走行状態、外気温、バッテリー劣化度、急速充電履歴を統合的に評価し、冷却液流量とファン回転数を予測制御することで、充電直後の局所温度上昇を抑制する制御システムを調査対象とする。

フェーズ	AI エージェントが立てる調査計画	具体的な処理
入力理解	技術案を構成、制御対象、入力データ、制御ロジック、技術効果に分解する。	バッテリー冷却装置、冷却液流量制御、ファン制御、劣化度、急速充電履歴、局所温度上昇抑制を抽出。
特徴抽出	新規性判断に重要な要素を候補化する。	劣化度と急速充電履歴を併用する予測冷却制御、局所温度上昇抑制をキー特徴化。
ユーザー確認	抽出特徴をハイライトし、ユーザーが修正・削除・追加する。	走行状態は一般的すぎるため重みを下げ、急速充電履歴を重視する等。
検索戦略	セマンティック検索、分類コード検索、引用検索、段階的検索を組み合わせる。	EV、Battery thermal management、fast charging、degradation-aware control などを概念検索。
先行技術比較	関連文献をランキングし、発明特徴ごとに対応箇所を比較する。	各文献が劣化度、急速充電履歴、予測制御、局所温度抑制を開示するかを整理。
結論生成	新規性リスク、差別化余地、追加すべき限定要素をまとめる。	急速充電履歴と劣化度の同時利用は差別化候補、温度予測制御自体は既存技術が多い等。

出力項目	具体的な内容例
発明要約	EV バッテリーの温度制御において、充電履歴と劣化度を考慮して冷却液流量およびファン回転数を予測制御するシステム。
抽出された主要特徴	F1：バッテリー劣化度の取得、F2：急速充電履歴の利用、

	F3：冷却液流量とファン回転数の協調制御、F4：局所温度上昇の予測抑制。
先行技術ランキング	関連度順に、近接文献、出願人、公開番号、法域、要約、該当クレーム・段落を提示。
特徴対比表	各先行文献がF1～F4を開示しているかを完全一致、部分一致、非開示などで整理。
新規性・進歩性リスク	F3は広く既知、F1とF2の組合せは限定的に開示あり、F4を具体化すれば差別化余地あり等。
推奨アクション	クレームに入れる限定、追加実験データ、回避すべき表現、追加調査領域。

4.2 Patsnap FTO Search AI Agent の事例

FTO Search では、製品や実施予定技術を入力し、対象市場や特許庁・データベース、例えば USPTO、EPO、CNIPA などを選択する。AI は技術特徴を抽出し、ユーザー確認後、複数ラウンドのセマンティック検索、分類検索、キーワード検索を実行し、ヒットした特許のクレーム要素と製品特徴を対応付ける。アウトプットは、claim mapping、legal status、infringement risk conclusions を含む FTO レポートである。

FTO 調査段階	処理内容	アウトプット
製品特徴の抽出	製品仕様からクレーム充足性に関係する構成要件を抽出。	センサー、制御部、予測モデル、冷却装置、制御信号などの要素リスト。
対象法域の設定	販売予定国、製造国、輸出国をもとに検索対象を決める。	米国、欧州、中国、日本などの対象 DB リスト。
権利存続特許の抽出	失効・満了・放棄特許を除外し、有効または係属中の権利を重視する。	法的ステータス付きのリスク候補特許一覧。
クレームマッピング	製品特徴と独立請求項・従属請求項を対応付ける。	Claim chart 形式の対応表。
リスク分類	文言侵害・均等論・設計変更余地の観点でリスク分類する。	高リスク、要確認、低リスク特許の分類。
レポート生成	FTO 判断に必要な根拠、法的ステータス、リスク結論をまとめる。	FTO report、claim mapping、legal status、infringement risk conclusions。

4.3 Patsnap Patent Drafting AI Agent の事例

Patent Drafting AI Agent では、発明開示書や初期クレーム要件をアップロードし、AI 支援 UI 上で技術特徴や用語を精緻化した後、管轄国の様式に合った明細書案を生成する。Patsnap は、USPTO や CNIPA の要件に合わせた構造・言語フォーマット、クレーム、背景、実施例、図面注釈などを生成できると説明している。

入力	AI が立てる作成計画	生成アウトプット
----	-------------	----------

発明開示書	発明の目的、課題、構成、効果、変形例を抽出する。	発明概要、課題、解決手段、効果の整理。
初期クレーム要件	独立請求項と従属請求項の候補を構成する。	クレーム案、従属項バリエーション。
図面・部品説明	構成要素と符号の整合性を確認する。	図面の簡単な説明、符号説明、実施形態。
対象国	USPTO、CNIPA などの様式に合わせる。	管轄別フォーマットの明細書案。
先行技術情報	背景技術と差別化ポイントを整理する。	背景技術、従来課題、本発明の優位性。

4.4 TokkyoAI Deep Research の基本構成

TokkyoAI の Deep Research は、Deep Search、Deep Analysis、Deep Proposal の三段構成である。単一 AI ではなく複数 AI が役割分担し、目的達成のために自律的に動作する「ディープエージェント方式」を採用する。重要なのは、結果だけでなく、検索式、分析過程、AI がどのような観点で判断したかを可視化する点である。

段階	AI エージェントの役割	生成される中間・最終アウトプット
Deep Search	技術内容、研究メモ、課題文を理解し、意味ベースで先行技術・関連特許を探索する。	検索方針、検索式、検索観点、関連特許リスト。
Deep Analysis	抽出特許群を技術構成、作用・効果、目的などで構造化する。	類似点・差異表、競合ポジション、技術構成マップ。
Deep Proposal	分析結果に基づき、出願方針、差別化ポイント、知財戦略案、社内説明資料を作る。	発明提案書ドラフト、出願方針案、知財戦略案、検討資料。

4.5 TokkyoAI 事例：商業施設向け接客ロボット

公開事例では、商業施設向け接客ロボットの対応内容最適化技術について、MyTokkyo.Ai が発明要素の整理から発明提案書作成までを支援した。入力情報としては、接客フロー、対話シナリオ、顧客属性データ、現場課題などが想定される。

フェーズ	調査・整理計画	具体的な観点
発明抽出	入力資料から特許化可能な制御ロジックを抽出する。	顧客状態推定、対話内容解析、案内内容切替、リアルタイム制御。
課題整理	現場課題を特許上の技術課題に変換する。	来店客の関心・状況を十分に把握できず、案内内容が目的と合わない。
先行技術探索	接客ロボット、推薦制御、顧客属性推定、対話制御の特許を探す。	ロボット接客、顧客プロフィール、会話履歴、店舗 DX。
差異分析	既存技術との差別化要素を抽出する。	来店時間帯、購買履歴、対話内容を統

		合して対応内容をリアルタイム切替する点。
発明提案書化	課題、解決手段、効果、実施形態を整理する。	知財部・弁理士に渡せる発明提案書ドラフト。

この事例で整理される発明要素は、課題として「来店客ごとの関心や状況を十分に把握できず、接客ロボットによる案内内容が来店目的と合わない」、解決手段として「来店時間帯、過去購買履歴、接客ロボットとの対話内容などを AI が解析し、その場の状況に応じて対応内容をリアルタイムに切り替える制御方式」、効果として「接客満足度向上および購買行動促進に寄与する」である。

4.6 TokkyoAI 事例：医療現場向け搬送ロボット

医療現場向け搬送ロボットの動線最適化制御技術では、病院内搬送フロー、制御ロジック資料、人流データ、過去移動実績、現場課題を入力し、AI が調査計画を可視化し、先行技術を参照しながら発明提案書を作成したとされる。

フェーズ	調査計画	生成される内容
技術課題の特定	医療施設特有の混雑、人流変動、搬送遅延を技術課題として定式化する。	時間帯や混雑状況によって安定した動線確保が難しいという課題。
先行技術の調査	搬送ロボット、病院内物流、経路最適化、人流予測、動的経路切替の特許を調査する。	関連特許リスト、検索観点、検索式。
差別化分析	既存の経路制御と、人流予測・過去実績利用の違いを整理する。	類似点・差異、競合技術とのポジション。
発明構成の抽出	請求項候補になり得る構成要素を抽出する。	人流データ取得部、混雑予測部、経路決定部、動線切替制御部。
効果整理	技術的効果を定量・定性で整理する。	迂回・停止抑制、搬送遅延約 30%削減、医療業務円滑化。
発明提案書作成	知財部・弁理士が検討できる形式に落とす。	発明名称、背景、課題、解決手段、効果、実施例、先行技術との差分。

5. データソース・アルゴリズム・技術アーキテクチャ比較

技術的に見ると、Patsnap は大規模なグローバル特許・技術文献データ基盤、特許特化 LLM、RAG/RAT、複数検索戦略により、根拠付きの検索・比較・レポート生成を行うタイプである。TokkyoAI は、日本語の研究メモ・技術文書・生成 AI 入力を起点に、自然文類似検索、独自高速処理基盤、複数 AI の役割分担、検索・分析・提案の可視化により、発明整理から提案書化までを進めるタイプである。

技術要素	Patsnap	TokkyoAI / MyTokkyo.Ai
中核モデル	PatsnapGPT。特許・技術文献で訓練	ChatGPT-4o 等の生成 AI + 特許データ

	されたカスタムモデルと説明される。	特化実装。
データソース	グローバル特許、科学技術文献、技術知識、ライフサイエンス・材料系データ。	Tokkyo.Ai の特許データ、研究メモ、技術文書、生成 AI Plus 出力、類似特許検索結果。
検索方式	セマンティック検索、分類コード検索、引用検索、キーワード検索、段階的検索。	自然文・意味構造ベースの類似検索。類似度順に 300 件表示、AI おすすめ。
推論方式	RAG で根拠文書に接地し、RAT で検索結果をランキング・解釈する。	Deep Search、Deep Analysis、Deep Proposal に分け、複数 AI が役割分担する。
調査計画	Chain-of-thought により検索クエリ生成、データ取得、推論ステップを計画。	検索式や分析過程を可視化し、調査計画、検索、分析、発明提案書作成まで実行。
アウトプット	新規性レポート、FTO レポート、クレームマッピング、引用付きレポート、明細書ドラフト。	発明提案書、出願方針案、差別化ポイント、知財戦略案、社内説明資料、検索式・分析過程。

Patsnap の RAG は、回答を特許・論文などの実文書に接地し、幻覚を抑えるための仕組みである。RAT は、検索結果を単に列挙するのではなく、関連性、クレーム対応、技術特徴の近さ、法的有効性などを評価して優先順位を付ける処理に相当すると考えられる。

TokkyoAI の技術的な核は、自然文類似検索と Deep Research である。入力内容を分析し、文書の深い意味構造を考慮して類似性を評価し、関連度の高い特許を提示する。また、X システムと呼ばれる独自のビッグデータ高速処理技術により、大量データを短時間で処理することを訴求している。

6. ユースケース別評価

特定ユースケース別に見ると、グローバル新規性調査、FTO、クレーム単位の精密比較では Patsnap が優位である。一方で、日本語の研究メモ、現場課題、社内技術資料から発明提案書を作成する用途では TokkyoAI が優位である。

ユースケース	優れている可能性が高いツール	理由
グローバル新規性調査	Patsnap	グローバル特許・文献、セマンティック検索、分類コード、引用検索、RAG/RAT、PatentBench 評価が強い。
グローバル FTO・侵害予防調査	Patsnap	法域指定、権利存続確認、クレームマッピング、侵害リスク結論が明示されている。
日本語の研究メモから発明提案書作成	TokkyoAI	技術メモや課題文を課題・解決手段・効果に整理し、発明提案書化する事例

		が公開されている。
技術者による初期アイデア相談	TokkyoAI	検索式不要の自然文検索、AI おすすめ、類似度ランキング、提案書作成導線が使いやすい。
海外出願前の明細書ドラフト作成	Patsnap	USPTO/CNIPA 等の様式を意識した明細書生成、クレーム・実施例・図面説明の生成に強み。
日本企業の知財部・事業部向け説明資料	TokkyoAI	検索式、分析過程、思考プロセスを可視化し、社内説明・検討用提案書を生成する方向。

たとえば、EV バッテリー冷却制御技術のグローバル新規性調査では、Patsnap が有効である。理由は、海外特許、非特許文献、分類コード、引用関係を用いた複合検索が必要であり、単純な日本語自然文検索だけでは拾いきれない表現揺れや多法域文献が多いためである。

一方、商業施設向け接客ロボットや医療搬送ロボットのように、日本語の現場課題を発明提案書へ整理する用途では TokkyoAI が有効である。課題、解決手段、効果、先行技術との差分を整理することで、知財部や弁理士との初回相談の質が上がる。

7. 将来の機能拡張

Patsnap の機能拡張は、Eureka を IP、R&D、Materials、Life Sciences を横断する AI エージェント基盤へ拡張し、API、MCP、UI Widget、Desktop で外部システムに組み込める「AI inside」型プラットフォームへ進化させる方向が明確である。TokkyoAI の機能拡張は、日本語の研究メモ、技術文書、発明案から、調査、分析、提案、ドラフト作成までを一気通貫に行うディープエージェントを高度化し、知財判断・研究投資判断・社内説明に使える「思考パートナー」へ進化させる方向が明確である。

観点	Patsnap の拡張方向	TokkyoAI の拡張方向
プラットフォーム戦略	Eureka を縦割り専門エージェント群に再設計し、IP・R&D・材料・ライフサイエンス別ホームを提供。	MyTokkyo.Ai を、技術メモから発明抽出、先行技術調査、出願ドラフトまで進める対話型 AI 特許基盤として拡張。
直近・明示された機能拡張	TRIZ 強化、Technical Q&A の分析・可視化、Pulse による技術動向モニタリング、中央入力ボックス化。	Deep Research、Deep Search / Deep Analysis / Deep Proposal、検索式・分析過程の可視化、ディープエージェント機能の高度化。
外部連携	REST API、MCP Server、UI Widget、Agent Skills、Eureka Desktop により企業システムへ組み込み。	社内技術文書・研究ノート・議事録・図面などから知財プロセスへ接続する方向。
将来像	R&D intelligence を企業内外のアプリ	日本企業の研究開発現場と知財部門を

	ケーションに埋め込む、グローバルなイノベーション OS 化。	つなぐ、発明創出・出願判断・知財戦略支援基盤化。
--	--------------------------------	--------------------------

Patsnap の重要な拡張は、Open Platform である。210M+のグローバル特許・科学技術データと AI エージェントを、REST API、MCP Server、UI Widget、Agent Skills を通じて企業システムに組み込めるため、単独 SaaS から企業内 AI エージェントの知識基盤へ進む可能性がある。

TokkyoAI の重要な拡張は、ディープエージェント機能の高度化である。Deep Research を通じて、AI が検索・分析・文章化を使い分け、検索式や分析過程を可視化し、出願方針、差別化ポイント、知財戦略、社内説明資料まで作成する方向が示されている。

8. 日本の知財実務への影響

Patsnap と TokkyoAI の機能拡張は、日本の知財実務に対して異なる方向から大きな影響を与える。

Patsnap は、日本企業の知財実務を「グローバル R&D インテリジェンス」「FTO・競合監視」「海外出願・海外事業判断」に拡張する影響が大きい。一方、TokkyoAI は、日本語の研究メモ、現場課題、議事録、技術資料から発明候補を抽出し、発明提案書や出願検討資料へ変換することで、知財実務の入口を広げる影響が大きい。

影響領域	Patsnap の主な影響	TokkyoAI の主な影響
発明発掘	グローバル先行技術・技術トレンドから研究テーマやホワイトスペースを発見。	日本語研究メモ・議事録・現場課題から発明候補を抽出。
先行技術調査	海外特許・論文を含む精密調査、RAG/RAT による根拠付きレポート。	検索式不要の自然文検索、類似特許抽出、差異整理。
FTO	法域指定、クレームマッピング、法的ステータスを伴う FTO 支援。	FTO 専用よりも発明整理・関連特許比較が中心。
出願準備	海外様式を意識した明細書ドラフト、クレーム・実施例生成。	発明提案書、出願相談用資料、初期ドラフト作成。
知財戦略	Pulse、技術動向監視、競合分析、API/MCP 連携。	出願方針、差別化ポイント、社内説明資料、知財民主化。
組織影響	知財部がグローバル R&D インテリジェンス部門化。	技術者・非専門家が知財プロセスに直接参加。

8.1 発明発掘への影響

Patsnap の機能拡張は、世界の技術動向、競合出願、研究テーマ、ホワイトスペースを踏まえて、どこに発明機会があるかを示す方向に作用する。これにより、日本企業の R&D 部門は、発明を社内で偶然生まれ

るものとして扱うだけでなく、グローバルな出願傾向や研究トレンドから逆算して、発明すべき領域を探索する運用へ移行しやすくなる。

TokkyoAI の機能拡張は、社内に既に存在する未整理の発明候補を拾い上げる影響が大きい。日本企業では、発明届の作成が研究者にとって負担となり、発明候補が埋もれることが少なくない。TokkyoAI は、研究メモや議事録から発明候補を抽出し、発明提案書へ整えることで、発明届の前工程を AI 化する。

8.2 先行技術調査への影響

Patsnap は、先行技術調査をグローバル・多法域・根拠付き・比較可能なレポート業務へ引き上げる。海外出願前の新規性調査、米欧中での競合特許確認、非特許文献を含む技術調査では、Patsnap の機能拡張が大きな効果を持つ。

TokkyoAI は、先行技術調査を検索式不要の自然文検索・初期調査・日本語発明整理と一体化した調査へ変える。検索式を組めない技術者や若手知財担当者が、自然文で類似特許を探し、関連度順に結果を確認できる点が重要である。

8.3 FTO・侵害予防への影響

FTO 実務では、Patsnap の影響が特に大きい。対象技術を入力し、対象特許庁・データベースを選択し、複数ラウンドの検索を行い、クレームマッピング、法的ステータス、侵害リスク結論を含む FTO レポートを生成できれば、開発初期から FTO を組み込む運用が進む。

TokkyoAI は、公開情報上、FTO 専用機能よりも、発明抽出、先行技術調査、類似点・差異整理、発明提案書作成に重心がある。そのため、侵害予防の最終判断というより、回避設計の初期検討や競合特許との差分整理に使われる可能性が高い。

8.4 出願準備・明細書作成への影響

Patsnap の機能拡張は、海外出願やグローバル明細書作成の効率化に影響する。発明開示や初期クレーム要求を入力し、USPTO や CNIPA などの要件に合わせた明細書案、クレーム、実施例、図面説明を生成する方向で説明されているため、日本の特許事務所や企業知財部にとって、外国出願用のたたき台、実施例補強、英語明細書の構造化に役立つ。

TokkyoAI の影響は、より前段階、すなわち発明提案書と出願相談資料の品質向上にある。日本実務では、発明提案書の質が低いと、弁理士との打合せが長引き、明細書の質も不安定になる。TokkyoAI が課題、解決手段、効果、先行技術との差分を整理することで、出願前相談の質を底上げする。

8.5 特許事務所・弁理士業務への影響

Patsnap の機能拡張は、特許事務所に対して、海外調査、FTO、クレーム比較、明細書ドラフト作成の効率化圧力を与える。単純な調査やドラフト作成の一部は AI に置き換わる可能性があるため、弁理士の価値は、請求項設計、補正判断、権利化戦略、係争を見据えた表現設計へ移る。

TokkyoAI の機能拡張は、特許事務所が届く発明提案書の質を高める可能性がある。初回面談での情報不足が減り、弁理士はより早く発明の本質、先行技術との差分、権利化方針に踏み込める。一方で、AI 生成資料を依頼者が過信するリスクもあるため、弁理士には AI が整理した発明の妥当性を見抜く能力が求められる。

9. 導入モデル、ガバナンス、実務上の提言

日本企業にとって最も現実的なのは、Patsnap と TokkyoAI を段階的に使い分けるモデルである。まず TokkyoAI で研究メモや社内技術資料から発明候補を抽出し、発明提案書を作成する。その後、重要案件について Patsnap でグローバル新規性調査、FTO、競合監視、海外出願前調査を行う。

フェーズ	推奨ツール	実務内容
研究メモ・現場課題の整理	TokkyoAI	発明候補抽出、課題・解決手段・効果整理。
発明提案書作成	TokkyoAI	知財部・弁理士に渡す資料作成。
国内初期調査	TokkyoAI	類似特許確認、差分整理。
グローバル新規性調査	Patsnap	海外特許・論文を含む精密調査。
FTO	Patsnap	法域別クレームマッピング、権利リスク確認。
海外出願・競合監視	Patsnap	明細書ドラフト、Pulse、API/MCP 連携。

9.1 ガバナンス上の留意点

Patsnap では、AI が提示するグローバル調査レポートや FTO 結論を過信しないことが重要である。FTO は、クレーム解釈、均等論、法域別実務、製品実装の細部によって結論が変わる。AI レポートは意思決定の材料であり、最終判断は弁理士、弁護士、知財部が行う必要がある。また、API や MCP 連携が進むほど、社内機密情報の入力範囲、アクセス権限、ログ管理、輸出管理・経済安全保障面の運用ルールが重要になる。

TokkyoAI では、AI が生成した発明提案書をそのまま正しい発明と見なさないことが重要である。AI は研究メモをきれいに整理できるが、技術的実現可能性、先行技術との差分、効果の裏付け、請求項化可能性は人間が検証する必要がある。また、知財の民主化が進むほど、出願件数の増加、質のばらつき、発明評価基準の整備が課題になる。

リスク	Patsnap	TokkyoAI
過信リスク	FTO・新規性判断を AI 結論だけで決める。	AI 生成の発明提案書をそのまま出願判断に使う。
情報管理	API/MCP 連携時の社内機密・アクセス制御。	研究メモ・議事録の入力範囲管理。
品質管理	海外文献の解釈、法域別判断。	発明提案書の質、効果記載の裏付け。
組織運用	AI 調査のレビュー基準が必要。	AI 発明届の評価基準が必要。

9.2 最終提言

大企業・グローバルメーカーでは、Patsnap をグローバル調査、FTO、競合監視、技術トレンド分析の基盤として使い、TokkyoAI を日本語の発明発掘、発明届作成、社内提案書作成に使う二層構造が現実的である。中堅・中小企業では、まず TokkyoAI で研究メモから発明候補を抽出し、発明提案書を作り、重要案件について Patsnap や外部専門家を用いてグローバル調査・FTO を行う段階的導入が適する。

特許事務所では、TokkyoAI によって顧客から届く発明提案書の質が上がる一方、Patsnap によって海外調査・クレーム比較・ドラフト作成の効率化が進む。その結果、特許事務所の価値は、単純作業ではなく、請求項設計、権利化戦略、補正判断、事業戦略との整合性判断へ移る。

総合すると、Patsnap は「外を見る知財」を強化し、TokkyoAI は「内から発明を掘り起こす知財」を強化する。日本企業が AI 時代の知財体制を設計するなら、TokkyoAI で発明を発掘し、Patsnap で世界的な新規性・FTO・競合環境を検証する二段構えが有効である。

10. 参考文献

- [1] Patsnap Help Center: How Patsnap AI Agents Work: <https://help.patsnap.com/hc/en-us/articles/30912457586717-How-Patsnap-AI-Agents-Work>
- [2] Patsnap Help Center: What is an AI agent?: <https://help.patsnap.com/hc/en-us/articles/27718757796125-What-is-an-AI-agent>
- [3] PatSnap Eureka: <https://eureka.patsnap.com/>
- [4] PatSnap: The AI-Native Platform for Global Innovation: <https://www.patsnap.com/>
- [5] Patsnap Eureka: Novelty Search: <https://eureka.patsnap.com/blog/guide-to-novelty-search/>
- [6] Patsnap: Novelty search: how AI is transforming patent prior art analysis: <https://www.patsnap.com/resources/blog/novelty-search-prior-art-analysis/>
- [7] Patsnap Eureka: FTO Search: <https://eureka.patsnap.com/blog/guide-to-fto-search/>
- [8] Patsnap Eureka: Patent Drafting Best Practices: <https://eureka.patsnap.com/blog/tech-seek/patent-drafting-best-practices/>

- [9] Patsnap Help Center: Welcome to the New Eureka: <https://help.patsnap.com/hc/en-us/articles/26997492046749-Welcome-to-the-New-Eureka-Your-Guide-to-the-Upgraded-AI-Agents-Platform>
- [10] Patsnap Eureka Major Updates for Smarter R&D Decisions: <https://eureka.patsnap.com/blog/patsnap-eureka-major-updates-2026/>
- [11] Patsnap Open Platform / Eureka AI Inside: <https://open.patsnap.com/>
- [12] PatSnap PatentBench Research: <https://www.patsnap.com/benchmark/>
- [13] Patsnap: Patent AI Benchmarking Explained: <https://www.patsnap.com/resources/blog/patent-ai-benchmarking-explained-why-general-llms-fall-short/>
- [14] Tokkyo.Ai 公式サイト: <https://www.tokkyo.ai/>
- [15] Tokkyo.Ai プライベート AI 特許: <https://www.tokkyo.ai/pvt/>
- [16] Tokkyo.Ai: AI 検索 / ChatTokkyo 機能: <https://www.tokkyo.ai/pvt/function/>
- [17] Tokkyo.Ai: AI エージェント搭載特許支援プラットフォーム提供開始: <https://www.tokkyo.ai/patent/ai-agent/>
- [18] PR TIMES: TokkyoAI 特許特化ディープリサーチ実装: <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000388.000042056.html>
- [19] リーガルテック社: MyTokkyo.Ai 最新事例: <https://www.legaltech.co.jp/notice/ir2/>
- [20] リーガルテック: 商業施設向け接客ロボットの特許検討事例: <https://www.legaltech.co.jp/notice/260515/>
- [21] PR TIMES: 医療現場向け搬送ロボットの動線最適化制御技術の特許検討事例:
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000440.000042056.html>
- [22] 島津製作所: 知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立:
<https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html>
- [23] Genzo AI 公式サイト: <https://www.genzo-ai.co.jp/>
- [24] サマリア 公式サイト: <https://patent-i.com/summaria/>
- [25] サマリア: 生成 AI を活用した明細書作成支援機能をリリース:
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>
- [26] AI Samurai 公式サイト: <https://aisamurai.co.jp/>
- [27] Patentfield: AI サマリー概要:
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/ai%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%83%BC%E6%A6%82%E8%A6%81>
- [28] Patentfield: Patentfield AIR 生成 AI 調査・分析オプション:
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90ai%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>
- [29] Patentfield: AI サマリー機能リリース: <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000059.000025380.html>